

「人間の尊厳」と「個人の尊重」：
討議的実在論に基づく新たな関係構築の試み

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2021-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堂園, 俊彦 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027973

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02114

研究課題名（和文）「人間の尊厳」と「個人の尊重」 討議的実在論に基づく新たな関係構築の試み

研究課題名（英文）"Human Dignity" and "Respect for Individuals"---an approach to develop their new relationship based on discourse realism--

研究代表者

堂園 俊彦 (Dozono, Toshihiko)

静岡大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：90396705

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、憲法学や倫理学におけるさまざまな立場を検討することにより、「人間の尊厳」を、個性をもった人々の討議とケアによってその存在が確かめられるものとして位置付けた。従来の憲法学では、「人間の尊厳」を用いることに対して、「尊厳を持つ人間」と「もたない人間」を恣意的に区別してしまう危険性が指摘されてきたが、本研究の枠組みにより、こうした危険性を避け、「人間の尊厳」と「個人の尊重」を補完的に捉えることが可能になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本国憲法における「個人の尊重」を、「人間の尊厳」との関わりのなかで（その独自性も失うことなく）理解する一つの立場を示したことにある。また、社会的意義としては、医療・介護・研究に関するさまざまな法律やガイドラインに用いられている「人間の尊厳」を、討議やケアという日常の営みの延長線上に位置づけることにより、実践の場面に根付かせるきっかけを作ることができた点にある。

研究成果の概要（英文）：This study positions "human dignity" as something that can be verified based on discussions with and consideration for people with their individual characteristics through the examination of a range of perspectives in constitutional law and ethics. In existing studies on constitutional law, with regards to usage of the term "human dignity", the risk of arbitrary differentiation between "people who have dignity" and "people who do not" has been identified. However, we avoid this risk through the framework adopted in this study, making it possible to perceive "human dignity" and "respect for individuals" in a complementary manner.

研究分野：倫理学

キーワード：人間の尊厳 個人の尊重 討議倫理学 倫理コンサルテーション ケア 福祉

1. 研究開始当初の背景

今日、生命をめぐる国内外のルール作りにおいて、「人間の尊厳」は重要な役割を果たしている。わが国においては、2001年6月に施行された「ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律」において、「人の尊厳の保持、人の生命及び身体の安全の確保並びに社会秩序の維持...に重大な影響を与える可能性がある」(第一条)ゆえに、クローン個体(クローン人間)を生み出すことが禁止された。また、2014年に制定された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」は、「人間の尊厳及び人権が守られ、研究の適正な推進が図られるようにすること」を目的としている。さらに「社会福祉士及び介護福祉士法」では、2007年の改正に伴い、「個人の尊厳を保持する」ことが社会福祉士及び介護福祉士の義務とされ、新カリキュラムでは「人間の尊厳と自立」という大項目が立てられているのである。先端医学研究から医療・介護の領域まで、今日、人の生命が関わる場所、人間の尊厳が語られると言っても過言ではない。しかし、こうした重要性にもかかわらず、わが国の憲法学では、「人間の尊厳」を認めるかどうかという点から激しい論争が交わされてきた。

2. 研究の目的

これまでの憲法学において問われてきたのは、第13条における個人の尊重が、人間の尊厳(とりわけドイツ基本法第一条における)と同一であるのかどうかである。しかしこれまでの議論は、人格や理性といった形でのみ尊厳を理解した上で、「個人(個性)の尊重か人間の尊厳か」という二者択一を前提としていた。そこで本研究は、人間の尊厳を、討議プロセスを通じて見いだされる価値として位置づける立場から、硬直的・排他的な二元論とは異なる形で、「個人の尊重」と「人間の尊厳」の関係を定式化することを目的とする。

3. 研究の方法

- (1) ドイツや日本における倫理学・法学の領域における「人間の尊厳」をめぐる先行研究を収集・整理する。
- (2) 得られた研究成果を、学会において発表すると同時に、現場の医療者が集う研究会などでも共有し、実践に活かす形で理論を洗練する。

4. 研究成果

第一に、ドイツ基本法における、人間の尊厳と討議の関わりに関して、哲学・倫理学、法律学などの領域において、文献学的な調査を行った。とりわけ力を入れたのは、ドイツにおける議論のレビューである。人間の尊厳を、討議の枠組みを成立させる土台、討議を通じて合意される原則、討議を活性化するものなどとする立場を比較検討した。こうした調査にもとづき、ドイツにおける討議倫理の枠組みを用いて、日本国憲法における「人間の尊厳」と「個人の尊重」をめぐる議論を検討した。従来の議論では、「人間の尊厳」と「個性の尊重」の関係が不明確であったが、討議倫理の枠組みを用いることにより、個性を尊重する場としての討議を通じて、「人間の尊厳」の恣意的使用を制約するという枠組みを描くことができることを示した。しかし、討議倫理学では、「人間の尊厳」の担い手が討議的存在に限定されるが、討議を、そうした限定をも開放するものとして - 尊厳の多様性へ開かれたものとして - 位置づけることの重要性も指摘した。これらの研究成果は論文として公表された。

第二に、人間の尊厳と関連概念との関連を検討した。一つ目は「福祉」概念である。憲法上、「人間の尊厳」は国民の最低限の「福祉」を保障する根拠とされており、福祉概念を検討することにより、憲法において「人間の尊厳」が果たす役割を明らかにすることを目的とした。具体的には、マーサ・ヌスバウムとエヴァ・フェダー・キテイの議論を比較検討することを通じて、尊厳や福祉を積極的に規定することの危うさとともに、個別的なケアを通じた判断の重要性が確認された。二つ目は、「生命」概念である。従来「生命に尊厳は備わるのか」という形で議論が行われてきたが、ハンス・ヨナスの議論を手掛かりに、「人間の尊厳」は、生命を保護する側の責任として語られるべきことを指摘した。これらの研究成果はいずれも論文として発表された。

第三に、上記成果を踏まえ、医療・ケアの現場において倫理的課題に対応するためのシステムである倫理コンサルテーションについて検討した。近年ドイツでは、病院内だけでなく、院外倫理コンサルテーション(Ambulante Ethikberatung)の試みが各地で始まっていることから、ドイツにおける倫理コンサルテーションに関して現地調査を行った。調査結果は論文として公表された。さらに、臨床現場に実際に対話の場を作り出すために倫理コンサルテーションの教科書

『倫理コンサルテーション ハンドブック』を、倫理コンサルテーションを実践している人たちとともに執筆・出版した。本書は、海外における教科書を参考にしながらも、日本において倫理コンサルテーションに携わっている人たちとともに執筆することにより、体系的かつ実践的な教科書となっている。なお、公刊にあたっては、静岡大学人文社会科学部の支援を受けた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 堂園 俊彦, 亀田 有希子, 渡邊 達也, 氏原 淳	4. 巻 50 (4)
2. 論文標題 治験における包括同意の現状と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床薬理	6. 最初と最後の頁 177-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.3999/jscpt.50.177	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂園俊彦	4. 巻 23
2. 論文標題 人間の尊厳・自律・生命	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国土館哲学	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂園俊彦	4. 巻 69 (1)
2. 論文標題 ドイツにおける倫理コンサルテーション	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文論集	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堂園俊彦	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 人間の尊厳・福祉・ケア	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生命倫理	6. 最初と最後の頁 55-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂園俊彦	4. 巻 60
2. 論文標題 「個人の尊重」と「人間の尊厳」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 哲学誌	6. 最初と最後の頁 35-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂園俊彦	4. 巻 26
2. 論文標題 「人間の尊厳」と討議	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 生命倫理	6. 最初と最後の頁 26-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堂園俊彦	4. 巻 33
2. 論文標題 子の福祉と医療	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文化と哲学	6. 最初と最後の頁 73-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 堂園俊彦
2. 発表標題 有機体と価値
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堂園俊彦
2. 発表標題 公募ワークショップIII「尊厳ある人生の最終段階はいかにして可能か」趣旨説明
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堂園俊彦
2. 発表標題 人間の尊厳・福祉・ケア
3. 学会等名 東京都立大学哲学会 第 41 回研究発表大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堂園 俊彦, 亀田 有希子, 渡邊 達也, 氏原 淳
2. 発表標題 治験における包括同意の現状と課題
3. 学会等名 第38回日本臨床薬理学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堂園俊彦
2. 発表標題 福祉と尊厳
3. 学会等名 第28回日本生命倫理学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 堂園俊彦編著、竹下啓、神谷恵子、長尾式子、三浦靖彦著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医歯薬出版株式会社	5. 総ページ数 132
3. 書名 倫理コンサルテーション ハンドブック	

1. 著者名 松田純・堂園俊彦・青田安史・天野ゆかり・宮下修一編著	4. 発行年 2017年
2. 出版社 南山堂	5. 総ページ数 159 (22～31, 53～57, 74～85, 97～108, 114～118)
3. 書名 ケースで学ぶ 認知症ケアの倫理と法	

1. 著者名 堂園俊彦 / 赤林朗編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 416 (73～94, 205～228)
3. 書名 入門・医療倫理I〔改訂版〕	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>静岡大学教員データベース https://tdb.shizuoka.ac.jp/RDB/public/Default2.aspx?id=10677&l=0</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----